

---

# 少年の言葉

古尾 光

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

少年の言葉

### 【Nコード】

N2135K

### 【作者名】

古尾 光

### 【あらすじ】

ある少年が、動物と話せるようになった。

しかし、それを知った大きな国の人は少年の力を手に入れたいと考えるようになった。

ある小さな国の小さな村に、動物と話せる少年がいた。

少年はとても純朴で、動物にも村の人にも、愛されていた。この少年のおかげで、村の家畜は皆おとなしく、野犬も、家畜を襲うこと無く、大変平和だった。

ある日、少年の力に目を付けた大きな国の人間がやってきた。

小さな村の人たちは、必死に抵抗したが、敵うはずもなく、少年は無理矢理つれていかれてしまった。

大きな国についた少年は、鉄でできた施設に入れられ、外に出ることも許されなかった。無機質な施設の中、少年は故郷を思い、ひどく落ち込んでいた。

そんな少年の心を感じた動物たちは、少年のいる施設の前で、鳴き続けた。その動物達の悲痛な叫びに、少年の解放を望む人々もでてきた。

しかし、意固地になった大きな国の上層部は、無慈悲にも動物達の殺害を命じた。

次々と消えていく、動物達を感じながら、少年はひどい怒りを感じていた。

しかし、少年にはどうすることもできない。

無力感を感じながら、窓を眺めていると、一匹の虫が張り付いた。

虫の声は聞いたことがないが、少年はありったけの思いで、その虫に念じた。

（この酷い国の人たちを、こらしめてください）

そんな思いを、知ってか知らずか虫はどこかに飛んでいってしまう。翌日、その国に黒い影が覆った。

蜂や蝶、バツタにムカデ、ありとあらゆる虫たちが、少年のいる施設に集まり始めた。

それだけではない、他の場所にも虫は大量に現れた。田舎では畑は

食い荒らされ、町では仕事場に虫が現れ仕事もできない。

恐怖を感じ、少年を解放するべきだと言う人もいた。しかし、ほとんどの人は少年にした仕打ちを棚にあげ、被害をもたらした少年に処罰を望んだ。

そうして、少年は国を乱した罪により、死刑になってしまった。

国は処罰の日まで、また悪さをしないように、施設は大きな壁に覆われ、虫も一匹のこらず殺してしまった。

耳をすましても、なにも聞こえない。すぎるものがなくなった少年は、神に祈る。

（私が何をしたのでしょうか、私はただ静かに暮らしていただけです。この国の人達は、世界で一番自分達が偉いと思っています。あなたの力で、この国の人たちを懲らしめてください）

そんな思いも虚しく、少年は次の日殺されてしまった。

しかし、少年の願いはある形で実現する。

大きな国の人々が、次々と病気で死に始めたのだ。有効な対処法も見つからぬまま、病気は爆発的な勢いで広まり国の人口は激減し始めた。

人々は神に祈った。しかし、細菌に思いが通じる人間は、誰一人いなかった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2135k/>

---

少年の言葉

2011年1月18日21時40分発行